

事例
10-00

空き地を活用した花壇・さつま芋づくり 安芸区・矢野ニュータウン

【取組主体：矢野南三丁目町内会】

概要

団地内の長年使われていなかった空き地を地域住民の交流の場にするため、みんなで、春に除草して花やさつま芋を植え、秋にはさつま芋の収穫祭を開催しました。

取組内容

- 花壇・畑づくりの専門的な知識がある住民の方に技術指導をお願いし、5月に除草、6月に花・さつま芋の植付けを行いました。
- 植付けや収穫の時期以外にも、週2回定期的に各回2～3名で水やりと草取りを交替で行っています。以前は草が茂っていた空き地に、四季折々の花が咲き、団地を歩き交う人々の癒しになっています。

- 11月には150人が集まって、さつま芋の収穫祭を開催しました。人数が多いため、幼児、小学1～4年生、小学5～6年生と順番に芋掘りに挑戦しました。

つるを引っ張って、赤いさつま芋が顔を出すとみんな大騒ぎ。さつま芋は日照不足のため小ぶりでしたが約400個収穫することができました。掘った芋は、焼き芋にして食べたり、子どもたちが家に持って帰りました。

参加者	・除草（5月）約20人 ・花・さつま芋の植付け（6月）約30人 ・水やり・除草 毎週2回、各回2～3人 ・さつま芋の収穫祭（11月）約150人
作製費用	約13万円（倉庫、農作業用具、苗・種、土・肥料等） ※うち10万円は市の補助金「まるごと元気」住宅団地活性化補助金により対応

ポイント

- ★当初はさつま芋を高齢者宅に配布することも考えていましたが、予想以上に子どもが集まり、その余裕はありませんでした。収穫祭を年に2回の一斉清掃の日に合わせたことが、子どもたちが多く集まった理由だと思います。翌年はさつま芋用の畝を増やす予定です。



除草前の空き地



春に花やさつま芋を植えて



秋にはさつま芋を収穫



収穫したさつま芋は焼き芋に



収穫祭には約150人が参加